

## 釧路森林資源活用円卓会議（第2回 全体会）について

1. 開催日時 平成23年6月28日（火） 午前10時～12時
2. 開催場所 市役所 第1委員会室
3. 参加人数 委員18名、オブザーバ7名、事務局8名
4. 会議の概要
  - ・ 全体会の第2回目（平成23年度の1回目）。
  - ・ 鈴木不二男座長（釧路地方林業会会長）の進行のもとで、議論を行った。
  - ・ 今回は、グループ討議形式を取り入れ、それぞれ川上から川下までのメンバーが揃う3グループに分かれ、全段階の顧客満足度向上にむけた必要な「情報」といった話題を中心に、地域材利用の現状や課題、取り組むべき事項の検討・発表を行った。
  - ・ 討議後に、地方独立行政法人北海道立総合研究機構林産試験場の斎藤直人技術部長より戦略研究の説明を受けた。
5. 会議での意見
  - ・ 建築現場の親方などが「割れる・ねじれる・曲がる」という感覚をもって使われない場合もあるが、最近は乾燥で欠点が解消されてきている。需要拡大の手法として、さらにPRが必要。
  - ・ 「コスト」にきちっと対応していかなければ、地域材の利用は進まない。
  - ・ 市有林は間伐遅れで、作業道の整備も必要ではないか。間伐（伐採）をすることの「重要性」を、一般市民に伝えなければいけない。人の集まるイベントなどで伝えてはどうか。
  - ・ 市有林のカラマツを景観林と位置付けるのもよいのではないか。
  - ・ 地域材を用いて、床暖房向けの商品開発などはどうだろうか。
  - ・ 市有林の資源背景、施業計画などをきちんと伝えることが必要。
  - ・ カラマツの品質に対する懸念が払しょくされていない。技術的には乾燥の問題はクリアされているのだろうが、現場で必要な時に必要な材が手に入らないことがある。
  - ・ バイオマスでも、地元での利用体制を整える必要がある。



<円卓会議の様子>